

## パキラ

学名 : Pachira aquatica  
AUBL.

原産地 : メキシコから中米

科名 : パンヤ科

属名 : パキラ属



光 : 半日陰でも良い植物

温度 : 5℃以上の場所が望ましい

水 :

＜ハイドロカルチャーの場合＞水位計の赤いゲージがminになってからoptの位置まで入れてください。

＜土物の場合＞土の表面が乾いてから、たっぷり与えてください。

観葉植物の中でも、人気の高い品種です。

生長力も旺盛で、管理のやりやすい品種のひとつといえます。

見た目も、良いですよネ。

伸びすぎた茎などは、おかしくないように剪定すると良いでしょう。

熱帯の植物ですので寒さにはやや弱く、やはり室内でも5℃～10℃位は欲しい植物です。比較的、お手入れが簡単な観葉植物ですので大変、人気があります。

耐陰性もあり半日陰な場所でも管理できますが、日照不足になりますと、徒長ぎみ（もやしのように葉っぱがついている茎がひょろひょろと長くなる）してしまい、茎の上についている葉っぱがたくさんの場合、葉っぱの重量に耐えれなくなって、葉っぱごと下を向いてしまうことがあります。

こういう場合は、支柱などで支えるようにしたり、根元部分よりカットしてしまい、明るい場所で新しい新芽をふかせるようにします。

パキラは、剪定に強く、樹勢が強い観葉植物なので、比較的、容易に新芽を出してきてくれるのが特徴です。

よって、徒長気味になったり、樹形が乱れたりした場合は、気軽にカットしたりしても新芽が出てきてくれる丈夫な観葉植物です。

極端な話、樹形が乱れてしまったものは、葉っぱがついている緑色の細い茎（木化していない茎：※木化＝幹肌が茶色に変化してきて木のような状態に変化してくる）の根元よりすべてカットしてしまい、葉っぱがついていない丸坊主状態にしても、この時期（4～6

月頃) などでしたら、数週間~1ヶ月くらいできれいな新葉がでてきてくれ、数ヶ月もしますと、ある程度、葉っぱが茂った状態にできますので、こちらもおすすめだったりもします。

パキラにもいろんな樹形が仕立てられています。

最近、やはり人気なのは、数本の幹を三編み状態で編んだタイプが良く出まわっております。

幹のトップにこんもりと葉っぱが茂り、非常にインテリアとしてもきれいです。

このタイプは、ある程度、若木の状態の時に、編みこんでいき、その編み込んだ幹を固定し、幹を太らせ作ります。

その中の1本が、人工的に編みこんでいたりするため、ストレスなどにより枯れてしまったりすることが、たまに、ございます。こういった場合は、その1本を取り除き、残った幹を大事にしながら太らせていきますと、次第に隙間も小さくなっていきます。

数本、編み込みタイプの場合は、その内の1本に十分に栄養分が行き渡らなかつたり、根の状態が悪く水の吸収力が劣っていたりした場合に、枯れてしまったりする場合がありますということなので。

そういった場合は、取り除きましょう。

春~秋頃までは、鉢土の表面が乾いてから、鉢底から少し水が出てくるくらいまで水やりをしてあげるようにします。

また、鉢底から根っこがたくさん出てくるようになったら「植え替え」をしてあげましょう。

パキラは、洋風なお部屋でも和風なお部屋でも比較的マッチしてくれます。

また、育てやすく、樹勢もあり剪定などにも強いため、人気です。

パキラの特徴でもある基部をぷっくりと太らせたい場合は、明るい場所で管理していると次第にぷっくりとしてきます。

パキラは、半日陰な場所でも十分、管理できる観葉植物ですが、その特徴のひとつであるそのぷっくりとした基部は、日照不足にしていますとなかなか太りにくくなりますので、気をつけてくださいね。

